

SGHリレー講座 (高1: 第3回CTP+総学)

「現場を知る」ためのフィールドワーク入門

東洋大学国際地域学部 荒巻俊也教授



2016年5月12日(木) 6・7限目、地域研究の第一人者である東洋大学の荒巻先生を講師にお迎えし、課題研究に欠かせない「**フィールドワーク**」に関する講義と実習を行いました。

まず、荒巻先生から、地域研究にフィールドワークがなぜ必要なのか、何をすればいいのか、に関する講話(20分)がありました(スライド①②)。そして、

「**佐野の地域資源を活用して観光客を増やす**」
という本日のテーマが提示されました(スライド③)。

フィールドワークとは

「現場を**見る**」ためではなく、
「現場を**知る**」ために
行うもの

スライド①

事前準備 → フィールドワーク → 振り返り

「現場を知る」ための
事前の下調べ

「現場からわかることを
可能な限り引き出す」

わかったこと、(知ったこ
とをまとめて伝える

スライド②

グループワーク

「佐野の地域資源を活用して観光客を増やす」

というテーマに、グループとして提案を行うために、どのような調査が必要かを考えてください。

- (1) どのような地域資源があるかをグループでアイデアを出して、その中から一つを選んでください。
- (2) 上記の資源を活用した提案を行うためにどのようなことを調査する必要があるか、いろいろな角度からアイデアを出し合ってください。
- (3) 必要と思われる調査項目を整理して、模造紙にまとめてください。

スライド③

生徒は、クラスを越えてランダムに構成された8人のメンバーで、**グループワーク**を行いました。約40分後、完成したポスターを使って、**ポスターセッション**を行いました。ポスターセッションは、ポスターの説明をする係と、他のグループのポスターを審査する係に役割分担し、全員が交代で、**説明・審査**を行います。会場では、**熱のこもったプレゼン**が行われました。

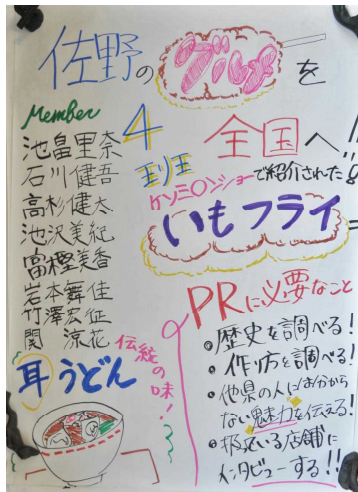




↑ 各グループによる熱のこもったプレゼンテーション ↑

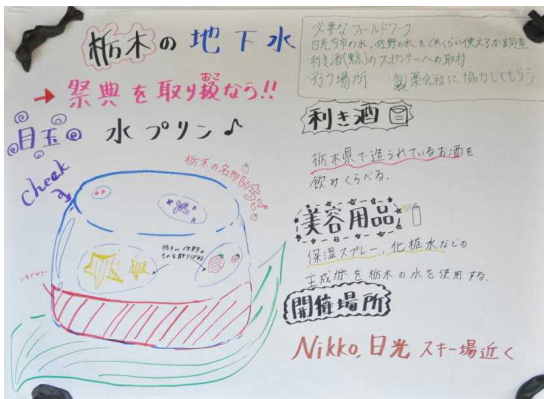
1週間後の5月19日（木）、**生徒による審査結果およびコメントの発表**を行いました。

優勝（第4班と第17班：獲得投票数16票で、同点優勝）



＜面白いと思った理由＞

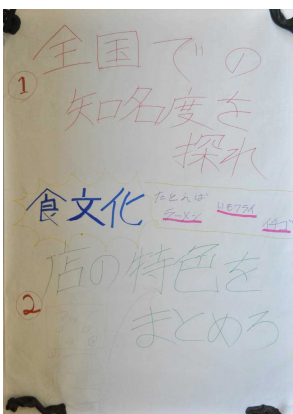
- ・内容がまとまっていて説得力がある。
- ・理由の説明がはっきりしている。
- ・佐野の食文化を全国と比較したり、店ごとに違う特色に注目したりしていた。
- ・プレゼンの仕方が独特で、よく練られていた。
- ・ありきたりでなくマイナーな食文化をあつく紹介していた。
- ・説明を熱く語る姿と説明の内容が面白かった（多数）。
- ・ポスターが上手でつい見てしまった。
- ・呼びかけなど、発表に工夫があった。



＜面白いと思った理由＞

- ・アイデアが斬新！
- ・フィールドワークが具体的に示されている。
- ・地下水に着目していて、視野が広い。
- ・細かいところまで作り込んであった。
- ・プログラムがたくさんあり、資源が有効に活用されていた。
- ・（お父さん向け、お母さん向けなど）家族全員向けの発想がすごい。
- ・説明がていねいで、聞いていて面白かった。

第3位（第5班：獲得投票数15票）



＜面白いと思った理由＞

- ・発表が上手で聞きやすく、地域資源についての力説がすごいと思った。
- ・説明がわかりやすく、授業を受けているようだった。
- ・他の班とは違うアプローチで佐野について調べようとしていた。
- ・全国のアンケート、大胆な調査を考えているだけでなく、調査に計画性があり、信頼性が高いと思う。
- ・調査内容も具体的な内容を話していて、びっくりした。
- ・全国の味・好みと佐野の味を比較する、というアイデアが噛み合っていた。
- ・ポスターの内容よりも、言葉の力だけでプレゼンができていたのがすごかった。